



社会学類への招待



A Guide to
College of Social Sciences, University of Tsukuba

ようこそ社会学類へ

●**社会学類とは**：私たちが生きている日常世界は、社会によってさまざまな意味を付与されています。社会科学とは、その意味付与の在り方について研究する学問です。社会学類を構成する社会学・法学・政治学・経済学は、その社会科学のなかでも基礎的かつ主要な学問分野です。これら4つの学問分野で採用されている研究手法はそれぞれ異なりますが、私たちの社会の仕組みを明らかにし、その問題点の解決策を模索する点では共通しています。社会学類では、各分野の基礎的な素養を身につけた上で、さらに専門分野を深めていくことにより、ものごとを複眼的にとらえる思考法を培ってもらうことを目的としています。

●**大学生生活**：社会は日々変化しています。そこに生起する問題も日々変化しています。また近年のグローバル化の進展により、ごく身近で起きる問題と国際社会の問題とが複雑に絡み合うようになっています。そこでは、社会の捉え方も、また問題の捉え方も、多面的かつ変動的なものにならざるをえません。その問題の解決策も、つねに暫定的なものでしかありえません。学生時代から、さまざまな社会問題への関心を深め、教員と一緒に、また学生どうしでも、大いに議論を戦わせてください。そして、互いに刺激しあう中で、新しい知識や思考を身につけてください。

●**市民として**：皆さんには、学生である以前に、まず市民としての自覚をもっていただきたいと思います。当たり前のことですが、私たちは一人では生きていけません。この社会の一員として、よりよい社会を築こうという気概をつねに持ちつづけてください。その社会は、いまや地域や日本に留まらず、全世界とシームレスにつながっています。複雑な社会問題を的確に把握しうる広い視野と能力を育むために、社会学類での大学生活をぜひ有効に活用してもらいたいと願っています。

社会学主専攻教授
社会学類長
土井 隆義

目次

筑波大学・社会学類について カリキュラム	1
各主専攻の紹介 ● 社会学主専攻	2
● 法学主専攻	4
● 政治学主専攻	6
● 経済学主専攻	8
4主専攻から	10
卒業生の声	12
卒業生の進路	14
「社学生」の生活	16
入学案内	17

筑波大学・社会学類について

社会学類は、社会科学を総合的に教育することを目的とし、同時に専門の内容を深めるために3～4年次は社会学・法学・政治学・経済学の4主専攻に分かれます。他の大学に当てはめて言えば、法学部（法律学科・政治学科）、経済学部、社会学部（ないし文学部社会学科）にそれぞれ所属しながら、他学部（他主専攻）の勉強をすることも可能であり、かつ必要というわけです。

人間はともすると、「深ければ、狭く」「広ければ、浅く」なりがちですから、ひとつの主専攻を深く、かつ他の主専攻を広く勉強することは、決して容易なことではありません。しかし、現代の複雑な社会問題はそのような勉強を要求していますし、またそれに応える勉強は楽しいものです。

たとえば、主専攻分野の勉強を深めるために、2～4年次においては、少人数形式の入門演習や演習（ゼミナール）が設けられ、活発な討論と深い研究の「場」となっています。また、指定の「教職科目」を修得することにより、教員の資格が得られます。社会学類で取得できる主な免許状（科目）は中学校1種（社会）、高等学校1種（公民）です。

このほか、学生が生きた学問を体感できるように工場見学や施設見学を行ったり、全国的にも珍しい裁判員制度に対応した模擬法廷教室で裁判実務の講義を行ったりしています。

社会学類と関係する大学院

社会科学と関係する大学院が筑波大学には多数設けられており、大学院に進学する学生も増えています。社会学類と最も密接な関わりを持つものとして人文社会科学研究科があり、その他に教育研究科、生命環境科学研究科、人間総合科学研究科、システム情報工学研究科、ビジネス科学研究科などがあります。

法学分野では、東京大塚に、社会人を対象とした法科大学院（ロースクール）が設置されています。

社会学類を卒業後、上記の大学院を経て、あるいは他大学の大学院（ロースクールを含む）を経て、大学やその他の研究機関、行政機関、法曹界、シンクタンク、マスメディアなどで専門知識を生かし研究を続けることが可能です。そうした多くの先輩が活躍しています。

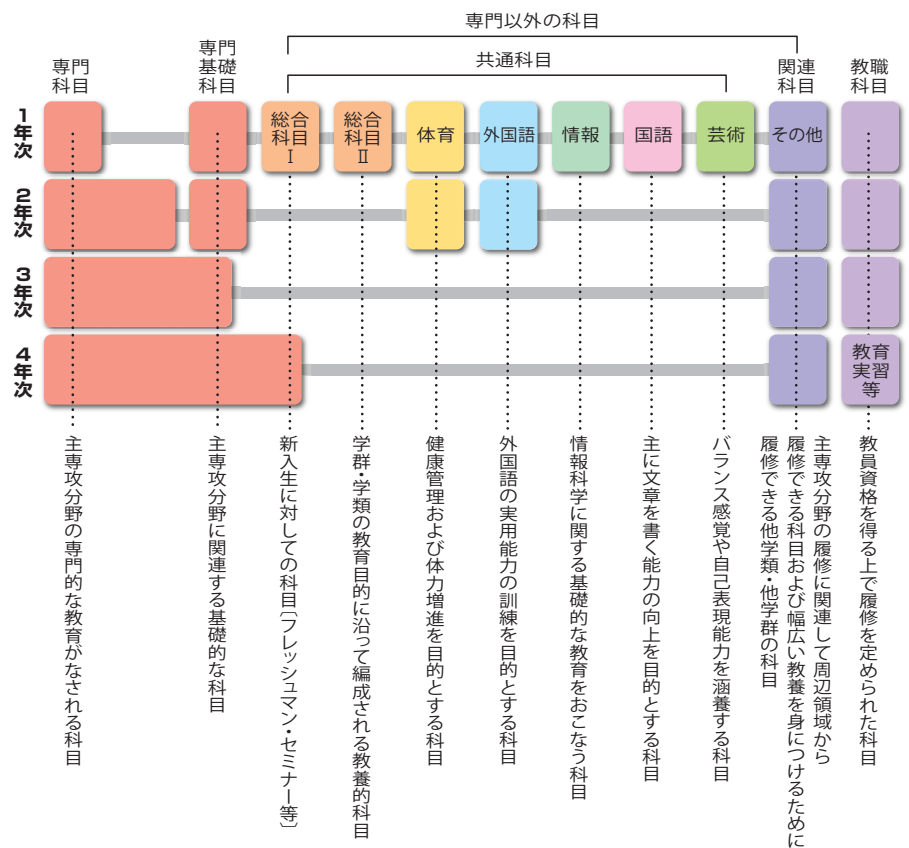
Curriculum

カリキュラム

筑波大学の授業は、従来の大学に多く見られるような教養課程と専門課程という段階的な区分を設けず、一般教育的な科目と専門教育的な科目を有機的に総合的に提供しています。

したがって、学生は、1年次から専門分野の学問に触れることができ、また必要と興味とに応じて他の幅広い学問分野からも知識を吸収することができます。4年間という期間を計画的に、また自らの関心にしたがって組み立てていくことによって、高校時代には味わうことのできなかった学問の奥深さと面白さを、きっと知ることができるでしょう。

授業は、「専門科目」、「専門基礎科目」、「共通科目」、「関連科目」に大きく分けられます。このうち、「専門科目」では各主専攻の専門分野に関わる知識を、「専門基礎科目」では専門分野に関連する社会科学の基礎的な知識を、「共通科目」では体育、外国語、情報、国語、芸術などを、「関連科目」では専門以外の幅広い教養を学びます。



社会学主専攻

社会学への招待

現代社会の様々な出来事は、思いがけないところで私たちの社会生活に変化をもたらしています。変わりゆく企業組織と家族関係の揺らぎ、新しい宗教現象と若者文化、外国人労働者の増加と地域社会、多様化するライフスタイルとメディア、例を挙げればきりがありません。経済、政治、文化、技術など一見ばらばらに見える社会の各領域も、実は相互に深く関係し合っており、そうした複雑な仕組みに眼を向けることなしには、現代社会を理解することはできません。

社会学は、こうした社会の各領域の成り立ちやそこに発生する問題を、特に私たちの日常生活のレベルから解明すると共に、さらに異なる領域の間に広がる見えない関係の連鎖を、人間や組織・集団の観点から自由に明らかにすることを、課題としています。本学の社会学主専攻では、主として社会問題論（国際移動・犯罪・逸脱行動・労働）、文化論（スポーツ・都市・メディア・知識・歴史）、医療・福祉論（老いと病い・社会保障・介護）を専門とするスタッフが、様々な学生の関心に対応した社会学の「フィールド」を整備しています。（下記の「卒論タイトル抜粋」を見てみてください）皆さんも、私たちが用意したこのフィールドで自由に駆けまわってみませんか？

教育方針と特色

社会学主専攻の科目は、社会学の基礎的な概念や理論を学ぶ社会理論、データを収集し分析するための方法を学ぶ社会調査・社会データ分析、そして家族や地域、産業、福祉、メディアなど個別分野についての社会学に大きく分けることができます。本主専攻では、単に社会理論を教育するだけでなく、現代社会のさまざまな問題に対して自ら頭と足で取り組む能力を養成するため、社会学演習（ゼミナール）と社会調査実習を開設しています。また国際的な視野から日本社会を学ぶことも重視しています。学生は、こうした学習の成果をまとめる機会として、卒業論文に取り組むことになっています。

将来の方向と進路

マスコミ・製造業・金融業・調査研究機関・サービス業などの民間企業や公務員など、きわめて多様な分野へと卒業生は就職しています。また、希望を生かして教員になるケースもあります。さらに、人文社会科学研究科（国際公共政策専攻社会学分野）をはじめとする大学院に進学することにより、より専門的な研究を続ける道も開かれています。



専門科目講義



つくば子育て支援総合センター



秋葉原見学（社会学演習）

卒業論文タイトル抜粋（平成27年度）

- 脱色化する祭り ●テレビドラマに描かれる父親像の変遷 ●ネットにおける若者の行動 ●箱根駅伝という表象
- 若者のつながりとカジュアルギフトの関係性 ●現代体育のゆらぎ ●栄養学的知識の歴史社会学 ●「ライブアイドル」の社会学
- 「アメコミ」ヒーロー映画に描かれる「正義」 ●大衆文化としてのストリート・ダンスの構造と変容 ●「ゆとり」か、「さとり」か
- 教育すべき「子ども」と未来の「お客様」 ●プロスポーツチームと周囲の支援から見える「地域」 ●科学語りと1968の精神



いがらし やすまさ
五十嵐 泰正

「都市社会学」「地域社会学」「社会学演習」「社会調査実習」▶【都市社会学／国際人口移動論】▶「大学の中

に引きこもっている社会学者に、社会の何がわかるんだ」でもっとも。否定はしません。「社会は社会に出てから肌で覚えるから、社会学なんて知らないよ!」それはどうかな? 「社会」には、たくさんの<社会>があります。油の匂いの漂う工場にも、深夜のファミレスにも。図書館でちょっと時代を遡れば想像もつかない<社会>があるし、海を渡ればちっぽけな予測を軽く裏切る<社会>が待っています。そうそう、大学もひとつの<社会>です。「社会人」になってから、安易に「社会」がわかった気になって失敗しないために、さまざまな<社会>にまみれながら、いくつもの<社会>の成り立ちを自分の頭で考えておく。それが社会学主専攻で過ごす大学生活です。



うらの えじそん
ウラノ・エジソン

G30 授業
Social Issues in Contemporary Japan, Comparative Society, Public

Policy, Transnational Social Policy など【国際社会学／国際社会政策】▶移住労働者の増加や企業の国際展開などにより、国家を単位とした公共政策が社会保障、雇用、所得再分配などのニーズに応えられなくなっています。こうした「矛盾」を念頭におきながら、社会政策のグローバルな枠組みについて一緒に考えましょう。



おくやま としお
奥山 敏雄

「組織社会学」「社会学基礎論」「社会学演習」▶【組織社会学／社会システム論／医療社会学】▶教科書に

書いてあることがすべて正しいと思わない態度を身につけることが大切です。社会についてはいろいろな見方や考え方が成り立ちます。様々な社会認識に対して、自分なりの距離を取れるようなタフさが必要なのであって、唯一の正しい見方を教えてくれと求めることは、安住できる宗教を求めるようなものです。大学に入ったら受験の思考回路を早く捨ててください。



かつらやま やすお
葛山 泰央

「知識社会学」「社会学演習」▶【言説分析／知識社会学／フランス政治哲学】▶社会学という学問的な営

みの特徴付けているのは、さまざまな社会(的事象)をその内部から観察することの二重性、つまりは「社会への視線」と「社会からの視線」とが互いに織り成す、ある種の往復運動にほかなりません。その意味で、社会学とは、近代社会の自己観察の営みであるともいえます。私たちの生きる社会への、私たちの生きる社会から向けられる、こうした視線のダイナミズムを、あなたもぜひ一度体験してみませんか。



たるかわ のりこ
樽川 典子

「家族社会学」「ジェンダー社会論」「ジェンダーと刑法」「社会調査実習」▶【家族社会学／福祉社会学】▶

知識を習得する勉強から、学を問う学問へ。筑波大学社会学類で学ぶ楽しさの一つは、ここにあります。メディアがとりあげる出来事だけが社会でしょうか? 人びとの生活のさまざまな事象をつうじて見えてくるものにも注目していきましょう。社会とは大学とは? 大学教授は何を考えているのか? わかりやすく知りたい方は、下記の文献を通読してみてください。

▷山下和美『天才柳沢教授の生活』全21巻、小学館



どい たかよし
土井 隆義

「現代社会論」「犯罪社会学」「社会学演習」▶【犯罪社会学／法社会学／逸脱行動論／社会問題論】▶

社会生活における様々な病理現象を素材に、社会学的なものの見方について考える授業を行なっています。社会学というパースペクティブから様々な病理現象をながめると、社会と私たちとの関りについて、今まで気づけなかった意外な側面が見えてきます。重大な社会問題と思われるものが、じつは別の側面で現代社会のシステムを支えていたり、あるいは逆に、望ましいと思われていた理念が、その裏側では病理現象を招いていたりすることが分かってきます。授業をとおして、社会病理をめぐって従来の常識を突き崩す面白さを味わうとともに、社会の中で私たちが生きていく意味についてもぜひ考えてください。



のがみ げん
野上 元

「歴史社会学」「社会学演習」▶【歴史社会学／メディアと情報化の社会学】▶なぜ社会学をやろうと高校

生の頃に考えたのかを思い出してみると、人々の営みを高見から説明することに魅力を感じていたのかもしれない。意外な視点で世の中や人間関係をぱっと斬り、物事の捉え方を変化させて、何気なく見えていた風景を変える…。社会学を学べば、まるで自分が世事から超越し、何か偉い人間になれるのではないかと思ったわけである。ただ、今ならそうは考えない。社会は高見から説明できるようなものではないし、つくづくそれは無力な高校生が頭のなかだけで一発逆転を狙っていたようなものだったと思う。



ファン スンヒー
黄 順姫

「社会学演習」「調査実習」「スポーツ文化論」「教育社会学」▶【教育社会学／文化社会学／スポーツ社会学】▶

▶社会学の演習では社会学理論と、フィールドでの調査方法を学び、関心のあるテーマで論文を作成します。たとえば「記憶の社会学」では、記憶の空間、時間、身体論を検討し、同窓会、スポーツ、整形・エステなどの分野からテーマで設定し、ゼミ論を完成します。調査実習では、直接フィールドに出て、たとえば、中等学校の学校現場、同窓会、または新宿大久保コリアタウン、秋葉原などで調査し、報告書を完成します。社会学研究の面白さを堪能してください。



もり なおと
森 直人

「労働社会学」「社会学演習」▶【労働社会学／社会階層論／戦後日本社会学】▶「労働

問題」をめぐる2つの問題を考察しています。1つは「労働」のあり方を通じて社会の構造的な格差や不平等がもたらされるメカニズム。もう1つは、人が「労働」に必要な知識や技能を身につけ、さらに「労働」そのものによって成長していくプロセス。私たちは社会のあるべき姿にむけて「格差是正」や「制度改革」を性急に求めがちですが、そこで前提として自明視されている《常識》はしばしば実態とかけ離れた歪んだ像を描き、善意にもとづく問題解決に向けた介入が「意図せざる結果」をもたらすことも多くあります。社会学はこうした矛盾をはらんだ複雑なメカニズムを解明していくためのツールなのです。

法学主専攻

法学への招待

現代社会の複雑多岐な社会生活は、様々な法律や制度によって運営されており、人としてそこに生きる以上、好むと好まざるを問わず法にかかわらざるを得ません。新聞を開いてみれば、個人のプライバシーとマスコミの取材の自由の問題、少年犯罪、児童虐待の増加等、「法的」な問題を毎日のように目にします。また、国際化の進展にともなって、外国企業の合併や吸収、国際貢献など、外国とのあいだで法的な解決を迫られる場面も増えていきます。法律というと、一見、日進月歩の科学技術とは異なり、固い、旧態依然というイメージがあるかも知れませんが、決してそのようなことはありません。証券取引の規制、ソフトウェアやバイオテクノロジーの保護や規制、ネット社会特有の諸問題への対応等、新たな法現象が生じてきたこともあって、情報化・国際化の今日、法学には、時代の変化に柔軟に対応することが求められているのです。

教育方針と特色

法学主専攻では、ひろく法にかかわる基礎的な理論・システムの把握を教育の中心においており、そうした教育を通じて、幅広い法的なものの見方、考え方を養うことを主眼としています。基本的な実定法を通じて、現実の法体系を学ぶことで、長い歴史のなかで培われた人間の叡知の豊かさを理解し、その社会的役割を適正に評価することが、なによりもまず求められます。

法学主専攻のカリキュラムは、様々な実定法から、政治学・経済学・社会学・人文関係系統にいたるまで、幅広いものを含んでいますが、そうした科目の学習を通じて得られる、社会生活全体を広い視野で考察する適切妥当な観点と判断力が、まさに法的なものの見方、考え方の現れなのです。様々な法分野の講義から、少人数形式のゼミナールや、卒業論文執筆（任意）にいたるまで、法的議論の「場」は多々用意されています。

将来の方向と進路

卒業生の就職先は企業・団体など多岐にわたり、国内外で広く活躍しています（うち約2割が公務員）。また、法科大学院へ進学し法曹を目指す卒業生のほか、研究大学院や政策大学院に進学する卒業生もいます。



演習の風景



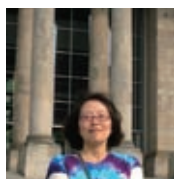
専門科目の授業風景



模擬法廷を使った授業風景

演習テーマ抜粋（平成27年度）

- 民法に関する問題点の研究 ●民法財産法の判例研究 ●信託法に関する問題点の研究 ●ヨーロッパにおける錯誤理論の比較法史
- 株式会社の企業統治に関わる機関 ●企業統治…社外取締役を巡る動き
- コーポレートガバナンス・コードとステュワードシップ・コード ●インターネットと法 ●ジャーナリズムと法 ●気候変動
- 刑法解釈 ●刑事事実認定 ●刑事手続の重要問題 ●交渉技術の検討と実践 ●中学生を対象とした法教育の教材作成
- 司法試験問題の検討 ●国家公務員、法科大学院試験対策



おかうえ まさみ
岡上 雅美

「刑法Ⅱ」「刑法Ⅲ」
「ジェンダーと刑法」
「ドイツ社会文化論」▶
【刑事責任論／刑罰論
／量刑／ドイツ刑法】

▶大学とは、知識を増やすだけが目標ではありません。大学での4年間(以上?)をどのように過ごすかで、良くも悪くもその人の一生が決まります。「本当に好きなこと」を大学生活の間で見つけてください。それぞれの「本当に好きなこと」を達成するにも努力と正しい戦略が必要なはず。できるだけ広い視野をもち、いろいろな物の見方ができるということが大切でしょう。いろいろなことを体験し、いろいろな本を読み、そして、是非是非、学生の間に、今まで行ったことのない外国を訪れてみてください。



きざき しゅんすけ
木崎 峻輔

「刑法Ⅰ」「刑法演習」
▶【正当防衛論】▶大学では、学習の対象を自ら選択して、自由に、深く学ぶことができる

反面、少し興味はあるけれど難しそうだなと尻込みしてしまうこともあるかもしれません。例えば、法律学の中でも刑法は、難解な専門用語が飛び交うことから敬遠する人もいでしょう。しかし、ほんの少しでも興味を持った対象については、恐れず、積極的に関わりを持って下さい。それがあなたの人生にとって大きな意義を持つものになることも、十分にありえます。



つじ ゆういちろう
辻 雄一郎

「憲法Ⅰ」「憲法Ⅱ」「憲法Ⅲ」「行政法」「法交渉学」▶【情報法／環境法】▶大学生活が希望に満ちた生活

とはいえません。権威となる通説や正解が存在せず、学説の対立する混沌の世界に投げ込まれ、現実と理想との間の乖離にとまどい、将来の設計図を自分の責任で描かなければならない「苦痛」の時期です。人生で成功する客観的な正解が存在しない世界を前に苦悩し、血肉の通った他者の生き方に触れ、自分の生き方を試行錯誤し、「実験」する。大学を卒業して初めて大学生活の「楽しさ」に気づくのかもしれません。



ねもと のぶよし
根本 信義

「裁判実務Ⅰ」「裁判実務Ⅱ」「裁判実務演習」▶【裁判実務／法教育】▶4年間はあっという間に過ぎてしま

います。知的好奇心を発揮して、さまざまなことにトライしてみてください。夢中になれる何かが見つければ、あなたにとって大きな財産になります。また、興味あることをみつけるためにも読書は大事です。手始めに新書を読むことを薦めます。法学関連としては、橋爪大三郎「人間にとって法とは何か」(PHP新書)、木村草太「キヨミズ准教授の法学入門」(星海社新書)、東谷暁「不毛な憲法論議」(朝日新書)、瀬木比呂志「絶望の裁判所」(講談社現代新書)などはいかがでしょう。興味をもったら、さらに専門書へとステップアップしてください。



はぎわら かつや
萩原 克也

「商法Ⅰ(総則・商行為)」「会社法」「有価証券法基礎」「電子記録債権法」「金融商品取引法」▶【運送法(海上・航空)／有価証券法】▶商法の分野は

複雑に見える部分もありますが、基本は「合理性」を追求した「実用的な制度と解釈」です。マニュアル思考とは違う法的なものの見方・考え方、論理性を習得し、社会にでたら起業家になったり、専門知識を生かして主体的に生きていこうと考えている方を歓迎します。まずは堅苦しく考えずに飛び込んでみてください。

ほしの ゆたか
星野 豊

「契約」「債権総論」「信託法」▶【民法／信託法／金融法】▶少なくとも学群生である間は、主専攻とする分野や将来の希望職種にとらわれることなく、幅広く学び、自由に考えることを心がけてください。興味を持つ対象が社会科学の範囲を超えて、他の領域に及んでいくことも、全く差し支えないと思います。逆に言えば、「自分はこの分野を専門としている」ということが、「他の分野のことは分からないし関心もない」ということにならないように、十分注意してください。



みやさか わたる
宮坂 渉

「民法総則」「物権」「法制史」▶【民法／ローマ法／西洋法制史】▶法律や裁判は、自分とは関係ない世

界の話のように聞こえるかもしれません。でも何故?今までは君が困ったら、家族や友人や学校の先生が助けてくれたでしょう。けれども世の中それでは解決できない問題が沢山あります。誰も助けてくれない。そんな君が最後に頼ることができるもの、それが法律であり裁判です。君がそこまで追い込まれていないなら、なぜ法律や裁判が必要か直ぐには分からないかも。でも人間には共感する力が備わっています。自分がそうになったらと想像して、実際にそうなった他人の気持ちを理解できるはず。そうした共感力を社会学類での4年間で培ってください。



もりた ちほこ
守田 智保子

「刑事訴訟法」「刑事政策」「法律外書講読Ⅰ」▶【刑事訴訟法／証拠法】▶大学では、これまでとは異なるこ

とばかりで、戸惑うことも多いかもしれません。最初は慣れるのに精一杯でも、いつか自分のペースを掴むことができます。そうしたら、少し立ち止まってみてください。きっとその頃には自分の夢がぼんやりと見つかると思います。他の誰でもない自分でそれを見つけて、少しずつでも寄り道をしながらでも進んでいけば、卒業の頃には、きつただの「夢」ではなくなるはずです。

政治学主専攻

政治学への招待

今日、私たちは政治の圧倒的な影響のもとに生活しています。実際、国際間でおこった一つの地域的なテロが全世界の市民をその渦中に巻き込み、政府が決定した一つの経済政策の失敗が、国民一人ひとりの生活のすみずみにまで浸透してきています。私たちが政治に関心をもたなくとも、政治が私たちをとらえてはなさないのです。

政治学はこのような政治の世界を理論的、科学的、歴史的に分析し、理解し、同時に政治のあるべき姿を科学的、思想的に考察しようとする学問です。人間・集団・社会・国家に発生するさまざまな利害の対立と解決の様相を研究するこの学問にとって、「人間」に関する多様な認識と深い洞察力は不可欠であり、そのためには、幅広い教養と専門的な知識を吸収しようとする旺盛な知的好奇心が求められます。

教育方針と特色

政治学主専攻では、政治に関する基本的な概念、理論、歴史などを学ぶ基礎的な講義、入門演習を通して、政治学的なものの見方を身につけます。そして、専門科目、専門演習に入って政治理論、政治思想、政治外交史、国際政治等、それぞれ自分の関心領域を決め、研究を深めます。

とくに演習は、少人数、自主的運営を原則とし、テキストの輪読や興味ある研究テーマについての報告、討議を行い、その成果をゼミ論文としてまとめることになっています。

演習はまた、学生の企画、討論への参加を通して自立心を育てる場であるとともに、ゼミ活動を通じて、学生同士はもとより、教員との相互親睦を深め、社会人としてのあり方を具体的に実践する機会を提供してくれるでしょう。

将来の方向と進路

就職先は、マスコミ、金融、製造、不動産、サービス業、さらに国家、地方の公務員等、多岐にわたっています。最近では、企業の総合研究所や情報関連企業に就職する卒業生も出てきています。また、大学での研究を深めるために大学院に進学する者もいます。



専門科目の演習および講義風景

卒業論文タイトル抜粋（平成27年度）

- COP3における日本のリーダーシップ ●転換期における日本農業の再編成 ●少子高齢化社会に向けての日本財政
- 官僚機構における組織合理性 ●震災後のいわき市における人口増加の政治学的分析
- 外国人集住地域における日本人の対外国人意識 ●シンガポール政府の教育政策



あかし じゅんいち
明石 純一

「国境を越える政治」▶
【移民・難民研究／アジア地域の国際人口移動の分析／グローバルガバナンス】▶人（あるいは

は労働力）・物（商品）・金（資本）、そして情報があたかも自由に国の境界線を越えているかにみえる現代社会を、「ボーダーレス」と形容することが増えました。グローバル化により世界は「ひとつ」になる、ということも頻繁に語られます。しかしそれはどこまでが本当のことなのでしょう。そもそも「国家」、「国境」、「国籍」、「国民」とは、いかなる実体を表す概念なのでしょう。世界各国を放浪していた大学時代にふと頭に浮かんだこの疑問に取りつかれ、今もまだ回答を探している最中です。政治学を含む社会諸科学の習得と行動による実体験を通じて現代社会の変化と普遍性を理解すること、そのような学びの場をみなさんと共有したいと考えています。



こんどう やすし
近藤 康史

「政治思想」「政治過程論」「現代政治分析」▶
【政治理論・思想／福祉国家論／イギリスを中心とした現代ヨーロッパ

政治】▶政治学を志す理由の一つに「社会を良くしたい」というものがあるでしょう。しかし、自分にとって「良い社会」が他人にとっても「良い」とは限りません。社会には様々な考え・価値を持つ人々が存在するからです。その多様性を踏まえながら、いかに平和的な共存の方法を見出すか、これこそが政治学の根本的な問いです。その問いへ向けて、まずはできるだけ多様な人々との付き合いやコミュニケーションを通じて様々な考えや価値に触れてみましょう。それが政治学への第一歩です。



すずき そう
鈴木 創

「比較政治学」「アメリカの政治」▶【現代アメリカ政治／議会研究】▶新聞やテレビで政治が語られない日はあり

ません。政治についての知識やイメージを得ることはそう難しいことではないでしょう。でも、常識とされていることが本当に正しいのか、常識とされる現象がなぜ起きているのか、ちょっと立ち止まって自分の頭で考えてみてください。有名な評論家がテレビで話していることも、大学の先生が本で書いていることも、批判的に考える姿勢を身につけましょう。



たけなか よしひこ
竹中 佳彦

「日本政治論」「日本政治思想」「現代政治外交Ⅰ・Ⅱ」▶政治学・日本政治論（イデオロギーと政治意識、投票行動などの計量分析／戦後の政治外交史・思想史）

▶政治とは、あらゆる人間諸集団に見られる、人間の相互作用によって生じる現象です。それを対象とする政治学は、古代ギリシャにまでさかのぼれる学問で、経済学や心理学、社会学、歴史学などの隣接諸科学の影響を受けながら発展し、時代に応じた役割を果たしてきました。複雑な現代の諸問題を解決するために、学問はますます学際化し、総合的な視点で物事を捉えて政策的に思考する人材が求められています。社会科学を広く学びながら政治学を学べる社会学類のメリットを生かし、そのような能力を培ってください。



ちえ じょうぶん
崔 宰榮

「計量分析入門」▶【計量政治学】▶社会をとりまく色々な問題に対し、自分なりの意見を持つ

て積極的に取り組みながら、自分の価値や潜在的能力を導き出し、社会の一員として何ができるのか、何をすべきなのか、という問いに答えを見つけてみませんか。



つじなか ゆたか
辻中 豊

「政治学」▶【各国の市民社会と政治／NGO・NPO・利益集団／政治過程の比較分析】▶政治は面白い…と15歳で

感じてから、40年余、私は今も楽しく研究しています。中味はいずれ講義で聞いてください。政治は運命への自己決定という側面もあり、どうしてもなく大きな歴史の流れという側面もあるので、多様な接近が必要です。歴史の奔流に流されず、メディアやエリートに操られず、自分が主人公になること、そのために政治学がありますが、さてその肝心の自分とは何でしょう。それを知ることから研究が始まります。そのためには自分「研究ノート」をつけましょう。



ふるた ひろし
古田 博司

「東洋政治思想」「情報戦略と政治」▶【東アジア政治／北朝鮮・韓国政治／東洋思想史／朝鮮史】▶近代を支えてい

た様々な擬制が壊れ、こちら側だけでは普遍を指向できない時代が訪れています。従来の学問の通説がいつの間にか現実妥当性を失って肩がで送りになる、そんなことはもう日常茶飯事です。ニーチェは19世紀の人ですが、『権力への意志』のなかで、すでにメタ物語を破壊し、その先のものまで斬りつけています。いわく、「現象に立ちどまって『あるのはただ事実のみ』と主張する実証主義に対して、私は言うであろう、否、まさしく事実なるものはなく、あるのはただ解釈のみと」。でも人間は世界の解釈をしなければ世界に住んでいられません。世界を何々圏という圏に分けて認識したり、検索エンジンのように全ての項目をあげてそれを類型化したりする、新しい学問の方法も模索されています。私の講義は、いま謙虚にこの時代に向き合い、真摯に格闘することから始められます。参考書は、古田博司『ヨーロッパ思想を読み解く-何が近代科学を生んだか』（ちくま文庫）を挙げておきましょう。



まつおか ひろし
松岡 完

「政治外交史」「アメリカ外交史」▶【アメリカ政治外交史／冷戦史／ベトナム戦争史】▶受験勉強中のみなさんは、

世界史や日本史は「暗記科目」で、つまらないと思っているのでは？でも本当は、歴史とは推理小説のようなもの。世の中に発生した無数の出来事の中から、それぞれの目で「事実」を選び出し、独自の「解釈」を加えることで、何が起きたのか、なぜそうなったのかという「物語」をつくりあげていく作業です。20世紀、とくにその後半の政治外交史を舞台に、その面白さを一緒に味わっていきませんか。



みなみやま あつし
南山 淳

「国際政治学」「国際紛争論」▶【国際政治理論／国際安全保障／グローバル化と国際紛争】▶「1

人を殺せば犯罪者となり、数百万人を殺せば英雄となる、数が殺人を神聖なものにするのです…」映画『殺人狂時代』（1947）の中でチャップリン演じる連続殺人犯が発したセリフです。倫理的判断はどうあれ、他者の生命を理不尽に奪うという意味で、殺人と戦争の分岐を犠牲者の数に求めることは一面の真理かもしれません。ただ誤解してはならないのは、大量殺戮の結果、殺人が正当化されるわけではなく、「正当」とされる目的が戦闘行為における殺害を正当化するという点です。戦争の目的が正しいか否かの判断は、人によって、国によって、時代によって変わってきます。「正しい戦争」は本当にあるのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

経済学主専攻

経済学への招待

経済学は、社会科学で唯一ノーベル賞の対象となっている学問分野です。経済学の方法は、狭い意味の経済現象の分析用具として大きな成果をあげてきただけでなく、政治、法律、労使関係、家族、環境問題、都市、教育、国際関係といった他の分野にも幅広く適応されてきました。その結果、今日では、それらの分野も経済学の重要な領域となっています。

経済学は他の人文社会科学と同様に歴史や思想を重視します。また自然科学と同様に、明確な仮定を設定し、それを客観的データを用いるなどして論理的に明らかにしていきます。

経済学は、しばしば誤解されるような、金儲けや社会の効率化の手段ではありません。それは、現代の社会問題を客観的に、そして検証可能な形で思考するために必要不可欠な手段です。

教育方針と特色

経済学主専攻では、経済学の基礎的な分析手法を段階的に学ぶことができるカリキュラムを設定しています。これに加え、理論や政策から歴史および現状分析に至る教育内容を設定することで、広い社会的関心をもちながら、現代の問題を体系的にとらえる能力の養成を目的としています。

また、他大学の経済学部と比べて教員一人当たりの学生数が少ないという特色を生かして演習（ゼミ活動）を重視しています。

そこでは、活発な議論を通じて経済学をより深く学べるよう留意するとともに、キャンパスを飛び出して工場見学を実施したり、日本銀行や証券取引所見学を実施するなど生きた経済を学ぶための実習的な取り組みも積極的に行っています。

さらに必修ではありませんが、学生生活の総決算として卒業論文をまとめることを推奨しています。

将来の方向と進路

就職先は、銀行など金融業から、製造業、マスコミ（新聞記者など）、教職、公務員などさまざまな分野に及んでいます。また、研究者をめざして大学院に進学する人もいます。



工場見学（クリーンルームにて）



演習風景



講義風景

卒業論文タイトル抜粋（平成26～27年度）

- 行動ゲーム理論の研究 ●一般者参加型ゲーム理論実験の企画遂行法とデータ収集法に関する研究
- 逐次的相互均衡によるゲーム理論モデルの分析 ●乃木坂46がトップアイドルグループになるための条件
- 機械学習に基づく限定合理的なプレイヤーのゲーム理論分析と、そのモバイル実験環境の構築
- On a noncooperative coalitional bargaining game ●先進国の事例から得る日本におけるマイクロファイナンス定着可能性の考察
- 日米中の成長モデルと経済思想 ●ゲーム理論の混合戦略によるサッカープレイの実証分析
- ケニアにおけるマイクログリッドとMペサを例にみる電化率拡大の可能性 ●水道事業の経済分析



しのつか ともいち
篠塚 友一

「経済学基礎論」「ミクロ経済学」「産業組織論」▶【ミクロ経済学／社会的選択理論／厚生経済学】▶

某大学の経済学部を受験すべきか商学部を受験すべきか迷っていたとき、当時その大学の商学部3年生であった方から、経済学部受験を勧められました。その方がおっしゃっておられたように、経済学は面白く、かつ有用な学問です。このことを深く理解するためには、最初の2年間は数学（線型代数、微積分）や論理学をじっくり学ぶとよいでしょう。



たかはし ひでなお
高橋 秀直

「現代経済史」「経済学入門演習II」▶【経済史／金融史】▶

知識は断片的な情報を相互に関連付けて整理したものです。高校までの勉強は、他の誰かが整理した教科書や受験参考書を利用するだけでした。でも、私は、他人の視点を身につけることから一歩踏み出して、自分なりのものの見方を手にしたいと思っています。新しいことを学ぶ度に、自分がすでに知っている知識と関連付ける練習を続けています。授業を通じてその一端を伝えられれば幸いです。



なか しげと
仲 重人

「公共経済学」▶【公共選択論／公共経済学】▶

人は、自分が社会関係を通じて形成した眼鏡をとおしてこの世界を見ています。眼鏡の良し悪しについては絶対的な基準はないかもしれませんが、少なくとも、経済学的手法は、一つの代替的な、かつ、とても興味深い眼鏡を提供してくれると思います。私の場合はそうでした。これは、自分と社会を認識している自分の視座を変革し、異なるレベルの満足と理解を得るために役に立つかもしれません。



ひらさわ てるお
平沢 照雄

「地域経済論」「日本経済史」「日本経済論」「経済学演習V」▶【現代日本経済／地域経済・

産業論／中小企業論】▶グローバル化が進む中で、今日の日本経済・地域経済は大きな転換期にあります。日本経済は、どのような歴史を経て現在に至り、今後どのような方向に向かおうとしているのかに興味をもち、日本経済・地域経済の歴史と現状について学びたいという意欲的な学生に出会えることを期待しています。



ひらやま あさじ
平山 朝治

「経済思想史」「経済学演習VI」▶【経済思想／経済システム・文化・思想の進化と持続／日

本社会】▶大学生になると、あらゆる面で、それまでと比べて自由に自分でものごとを決められるようになりますし、大学を卒業すると、これほどの自由や時間的余裕は二度と得られない人が多いでしょう。入学目的の受験勉強が終わった後、自由を持てあましたり、自由に背を向けること（カルトにはまるなど）にならないように、何ができるか、何をしたいかを予め考えて、夢を持って志望していただきたいと思います。



ふくずみ まさかず
福住 多一

「経済数学」「基礎経済数学」▶【ゲーム理論／進化ゲーム理論】▶

経済学は科学です。その体系の理論的本質の多くは、数学で記述します。これを理解するには、冷徹な論理的思考力が必要です。ただし科学的に解明する対象は、社会現象とそれを構成するヒトです。これを理解するには、社会やヒトに向けた温かい眼差しと豊かな心が必要です。このように、経済学は理系・文系の境界が無い新しい総合科学です。この若い科学を意欲的な皆さんと成長させたいと思っています。



みのわ まり
箕輪 真理

「開発経済学」「経済学演習X」▶【開発経済学／ラテンアメリカの経済／開発政策／社会開

発】▶世界は大きくて私たちの知らないことは無限です。そんな世界に生まれてきた私たちは本当に幸せ。限られた時間をどう過ごすし、何を考えて、いかに生きるのか、自分の選択次第です。自分の選択に責任を持って、たくましく生きてゆけるための基礎固めをする時間、それが大学での4年間です。社会学類に入学して、勉強は本当に楽しいということを実感してもらえたらと思っています。

4 主 専 攻 か ら

社会学主専攻 ● 山脇 耀平

ぼくたちは毎日大量に、情報のシャワーを浴びています。それらはマスメディアやSNS、ときには公共空間を利用してまで、過剰なまでにものごとを訴えかけてくるでしょう。おかげで注意深く生きていなくても、なんとなく知っているニュースや話題は、ひと昔前と比べて圧倒的に増えました。

しかし、たいていのことについては、あくまで他の誰かが用意した問題に対して、Yes or Noで考えているだけ。いまの世の中で課題とされていることを多く知っているのはすばらしいことですが、ただそれを知るだけで満足しては、課題を解決する力は得られません。

そこで、大学で学問を学び、自ら仮説を立て検証していくスキルを身につけることは、生涯社会の一員としてあり続けるためにとても役にたつといえるでしょう。

たとえば、わたしは地域社会学を専攻し、過疎地域の創生について学んでいます。国を挙げて制度化してもなかなか進まない地方創生ですが、成功している地域やうまくいっていない地域を取材すると、誰々が仲が良いとか悪いとか、あながい「そんなもんなの?」といえるところに大きな差があったりします。それらはけっしてメディアで語られているような内容ではなく、自分で考え調べてみなければ見つからないのです。

理論を駆使しつつも、フィールドワークとして調査対象に踏み込み、複雑な現代社会の意外な問題や原因を追求する。それこそが、良い意味で枠にとらわれない社会学の醍醐味だと考えています。その先に何かを明らかにできたとき、得られる喜びは計り知れません。

どんなテーマでも構わない、自分が心から取り組める、ワクワクできる気持ちになによりも大切に、一緒に社会学を志してみませんか。

法学主専攻 ● 富沢 元輝

みなさんは法学部に対してどのようなイメージを抱いていますか。広い講堂でたくさんの司法試験合格を目指す学生に対して先生が難解な法律用語を呪文の如く唱える。私は本学に入学するまではこのような印象を法学部に対して抱いていました。しかし、社会学類法学主専攻の学びは、大人数に対して行われる座学のための固い法律の授業ではありません。

そもそも法学主専攻には、各学年20名前後の学生しかいません。少人数の学生に対して行われる授業では学生と先生方との間の距離も近い。ため、疑問点を質問する機会も豊富です。学生達の素朴な疑問に先生方が真摯に答える学びの場がここには提供されています。また、少人数ゆえに発言の場が多く設けられたゼミでは、学生達や先生方との間で自由に活発な議論が行われます。

さらに、講義やゼミの中には、一般的な法律の解釈を扱うものだけではなく、法そのものについて深く考察するものもあります。私は昨年度法教育演習を履修していましたが、小・中・高校生に対して法教育を行う授業案について考える中で、そもそも主権者である国民を守るための法のあり方とは何なのかについて深く考えさせられました。裁判所などに学生を見学させる課外授業を積極的に行うゼミなどもあり、その中で法律実務の姿を体感することもできます。

また、学際性溢れる本学では、他学類・他専攻の講義も履修することが可能です。その中で、自身の視野を広げ多角的な観点から法的問題にアプローチすることもできます。自由な議論の場で広い視野を持って問題を考察できる法学主専攻での学びをみなさんには是非お勧めします。



活躍する学生 新田 萌夏

筑波大学には200を超える部・サークルがあり、多くの学生が参加しています。

私は筑波大学新聞に所属し、新聞を年に7回、1回につき約2万部を発行しています。ここでは取材活動から紙面編集までを全て学生の手で行っています。

入学当時、大学新聞を読んで「おもしろそうだ」と軽い気持ちで入部しました。実際にその通りで、警察署や市役所を回って記事になりそうなネタを聞いたり、学生や教員に大規模なアンケートを実施するなど、学生ながら貴重な経験をしています。そうした場で、社会学類で学ぶ法律や政治の知識が活かせることも多いです。

また、大学近辺に住む学生が多いため、時間を気にせず作業に熱中できる場所も魅力の一つです。一緒に作業を行ってきた部員たちは、今や私の学生生活を語るのに不可欠な存在です。

こうした経験ができる大学はなかなかありません。社会学類で学ぶ知識を活かしながら有意義な学生生活を一緒に送りたいです。



活躍する学生 小泉 奈桜子

「見たこともないのに、ごちゃごちゃ語るのやめた。」

社会学主専攻に進んだ大学2年生の夏、「(よく知らないけれど) アフリカの (よく分からないけれど) 貧困問題は、(さらに実態のつかめない) 社会学の

(しかも講義で知った) 貧困や格差へのアプローチを使って解き明かせるのではないか…」と鼻息荒く語る私に恩師が放った一言は強烈でした。はい、ごもっともです。

地域研究イノベーション学位プログラム (Area Study Innovation Program=ASIP) を知ったのはそんな時。紹介パンフレットには「新興国の専門育成」、「対象地域への研究留学」、「現地でインターン」など魅力的な文字が躍っていました。

ASIP生となった今、我が身を振り返ると、現地語の習得やそもそもの社会学への理解などまだまだ前途多難ですが、アフリカの地を踏み込むのを心待ちにしつつ勉強する日々を送っています。

ASIPはスタートしたばかりのプログラムです。いわば新興国状態。この刺激的な環境へ、あなたも足を踏み入れてみませんか。

政治学主専攻 ● 林 健太郎

米大統領選挙において事実上の共和党の大統領候補であるドナルド・トランプ氏の発言が日本を揺るがしています。なぜならトランプ氏が「日米安全保障条約は不平等だ。このままでは在日米軍の撤退も有りうる」という趣旨の発言を繰り返しているからです。

トランプ氏の発言は、日本が今まで在日米軍の駐留費のため多額の費用を負担してきたことや現状の東アジア情勢などが考慮されておらず、日本では一方的で非現実的なものだと批判を浴びています。

しかし、このように「暴言」を繰り返すトランプ氏ですが、米国民からの支持を広げています。それはなぜか。米国の世論には、今後は国際問題には積極的に関わらず、国内問題に集中すべきだとその孤立主義の考え方が根深くあるからです。

トランプ氏の発言はまさに孤立主義を支持する国民の声を代弁しているのです。また、皆さんの中には「国際問題に関与しない米国を想像できない」という方もいると思いますが、実は第二次世界大戦前までの米国の外交は、孤立主義の傾向が強かったのです。トランプ氏の一連の発言は孤立主義に回帰しようとする米国の外交政策の一つと言えるでしょう。

トランプ氏の登場に代表されるように、現在の世界は大きな転換期を迎えていると言えます。このような転換期にある世界情勢を理解するためには、政治学を学ぶ意義は大きいと思います。社会学類の政治学専攻では、政治理論や政治思想、政治外交史、国際政治等の授業を通して、政治の世界を理論的、科学的、歴史的に学ぶことができます。皆さんも、社会学類で政治学を学び、日々のニュースを深く考察してみませんか。



経済学主専攻 ● 渡邊 ますみ

「数学苦手だから経済学専攻とか無理。」そう友人によく言われました。かくいう私も数学はそこまで得意ではありませんでした。そんな私が経済学専攻を選んだきっかけは、オープンキャンパスで受けた模擬授業でした。数式や詳しい理論のことはよくわからなかったけれど、楽しかったのです。なんとなく興味を持ったのです。きっかけはそんな些細なものだと思います。

私は今、ゲーム理論と公共経済学の2つのゼミに所属し、日々学んでいます。それぞれのゼミで扱っている内容は大きく異なっていますが、この複数のゼミを受講することが可能である点は、「経済学」という学問に様々な角度からアプローチできるというメリットがあると思います。また、他大学に比べても学生の人数が少ないということもあり、ゼミはもちろんのことながら、普通の授業においても先生方との距離が近く、そのぶんわからない点を先生に聞きやすいので学ぶ環境は整っているのではないのでしょうか。

そして私が社会学類に入学し大学生活を送る中で一番驚いたことは、こんなにいろいろな人がいるのだ、ということでした。同期のみんなの考え方、やっていること、やりたいことが自分に新鮮で良い刺激をもたらしています。

社会学類では、入学後様々な分野の授業を受けることが可能で、自分の専攻を決める時間は十分に与えられていると思います。苦手だから、という理由で避けてしまうのはもったいないのではないのでしょうか。大学生活ではたくさんの出会いがあります。自分の何かを大きく変えるものもあるかもしれません。その中で、あなたが社会学類経済学専攻を選んでくれたならとても嬉しいです。皆さんにあえることを楽しみにしています！



海外留学の勧め 寶野 彩子

留学に行ったら何が学べるのか、多くの人は言語や文化と答えるでしょう。しかし、留学では語学力や異文化理解以上のたくさんあることを学べます。私は8ヶ月間筑波大学の交換留学制度を利用してオーストラリアに留学しました。交換留学を通して現地の人だけではなく多くの国籍の人々と交流することで、自分の中の価値観や世界観が大きく変わりました。特にマイノリティなどの社会問題を身近に感じたことは海外旅行だけでは得ることのできない経験でした。また、留学中に様々な困難を乗り越えることで間違いなく以前より成長することができました。現在筑波大学では留学支援に力を入れており、世界中の大学と協定を結んでいるほか、短期のプログラムなどでも多くの海外経験の機会を提供しています。また、社会学類では英語での授業が開設されており、大学内でも留学生とともに英語で授業を受けることができます。あなたも社会学類に入学して海外留学に挑戦してみませんか。



編入学の勧め 安達 優太

筑波大学社会学類には、編入という制度があります。この制度では、それまでに取得した単位を生かして3年次から入学し、社会学類で学び始めることができます。

私は、編入する前の大学では観光学を学んでいました。観光学は、経済学や社会学など様々な学問分野に関係しています。そのような学問の中で学んだ経済学に特に興味を持ち、基礎から深く学びたいと思ったことと、学際的に専門的な知識を得たいという理由で社会学類経済学主専攻への編入を決めました。

社会学類の特徴は、自分が専攻する以外の他専攻の授業を取る必要があることや、興味のある他学類の授業を履修し卒業単位に認められるなど学際的な教育が充実していることです。それらの授業で、様々な学問を学ぶことにより新しい視点を獲得することができます。

今では他専攻の学生を含め切磋琢磨できる仲間巡り合え、充実した学生生活を送っています。社会学類で自分の学問的興味を追求してみませんか？

名古屋家庭裁判所 三城 眞紀



私が社会学類を志望したのは、社会科学を幅広く学ぶことができるカリキュラムに惹かれたからです。入学して社会学に触れてみると、その時に「当たり前」だと思っていた価値観が揺らぎ、それまで生きてきた世界の見え方が変わったことを覚えています。家族、教育、学校、政治、地域社会、法律、犯罪、環境問題、差別問題…などなど、ありとあらゆる分野が、社会学の対象です。その中でも私は、少年非行や不登校など、子どもたちの生きづらさに関心を抱きました。卒業論文では、「生徒と教師のコミュニケーションが上手いかわからない」として、それぞれが理想とする教師像に差異が生じているのではないかと考え、複数の中学校においてアンケートを実施しました。する

と、生徒が教師に親しみを抱いているかどうかでも、求める教師像は変わる傾向にあること、教師に対してある種の面白さを求めている生徒が多い一方で、そのことに気が付いている教師は少ないこと、などの結果が出て、学校で起きている現象を考察しました。大学院を修了後、現在は裁判所に就職し、家庭裁判所調査官になるための研修を受けています。学生時代に「学んだ学問を生かせる仕事はないだろうか。」と思い、この仕事を知りました。「裁判所で社会学？法律ではないの？」と思われる方も多いと思います。家庭裁判所は、家庭に関する問題を解決したり、非行を犯した少年の処分を決定したりする場です。法律だけでなく、事件の背後にある人間関係や環境を踏まえた解決が求められ、家庭裁判所調査官は、心理学、社会学、教育学、社会福祉学など、様々な行動科学の知見を生かして事件の調査を行います。この仕事に就き、非行を犯した少年やその保護者、家庭に様々な問題を抱える人びとと接しています。その家族や事件を理解する際に、大学で学んだ社会学の知見が生きていると実感しています。最後になりましたが、みなさんも、この社会学類で社会学を学んでみてください。新しい世界がきっと待っていますよ。

卒業生の声

ソフトバンク株式会社 船山 裕貴



普段過でして「どうしてそこにこだわるんだろう？」「あの人の考えには納得できない！」と思うことは少なくないですね。このように異なる価値観の人々がいかに共存していくか、ということが政治学の根本的な問いです。

政治学主専攻を志す方のなかで「社会をより良くしたい」と思っている方も少なくないでしょう。ところが誰一人として自分と全く同じ価値観を持った人間はいないので、必ず意見の衝突が生じます。自分の生きる社会が、他の人の生きる社会と完全に重なっているわけでもありませんから、私にとっての良い社会が、必ずしも他者にとっても良い社会とも限りません。ここで最適解を問い続け

ることが政治学を学ぶ私たちに求められることです。

この政治学主専攻にも様々な価値観や問題意識を持った仲間が集まります。社会学、経済学、法学と異なる主専攻の仲間がひとつの学類として集まるのも筑波大学社会学類の特徴ですから、講義やゼミで自分が思いもなかった意見に出会うことも少なくありません。ゼミがまるで喧嘩のように白熱することも…（笑）

卒業後は民間企業で新たなビジネスを考え、行動する毎日ですが、唯一の正解がない政治学的な問いに向き合うのと同じで、やはりたくさんの情報に触れて、自分で考え、アウトプットすることの繰り返しです。政治学に向き合うことが、結果的に卒業後の自分にも活きていると感じます。

まずはたくさんの価値観に触れ、そして自分の好きなことや関心のあることを見つけ、じっくりと向き合ってみてください。学類を超えて横断的に学べる筑波大学だからこそ、社会科学を広く学べる社会学類だからこそ、実りある政治学の研究をすることが出来るはずです。

九州電力 黒瀬 雄介



「社会全体に対する法の影響やあり方を実践的に学びたい」

その思いから、私は社会学類法学主専攻に編入学しました。法を厳しくするだけでは解決に至らない問題に対して、社会学、経済学、政治学を学際的に学ぶことにより、他大学の法学部では得られない複線的な処方箋を見つけることが出来るかもしれない。その環境が整っているのが社会学類であり、この利点を強く生かしたいと強く感じました。

この他、社会学類法学主専攻で学ぶ利点として「ゼミ活動」が挙げられます。法学主専攻では、複数のゼミに入ることができ、少人数であるため発表・発言の機会が多く設けられます。いわゆるマンモス校では、ゼミに所属しない学生もいますが、社会学類法学主専攻ではゼミ

は必修となっています。自分の考えをまとめて発表し、議論する。確かにそのプロセスは大変ですが、受け身の講義では得られない表現力・思考力が身につくため、私はゼミに入ることが大学で学ぶ醍醐味だと考えています。

また、そういったゼミ活動のなかで、大学卒業後の今でも、定期的に先生やゼミの同期仲間と交流しているくらい強い繋がりを築くこともできました。

現在、私は、地元九州の九州電力で働いています。直接的に法律に接する機会は多くはないですが、それでも大学時代に得た法的知識やリーガル・マインド、自分の考えを表現する力が、日々の職務において生きていて実感しています。

どのような環境に身を置き、どのような学生生活を送るかは、今後の人生を左右する大きな選択になります。社会学類には様々な価値観に触れながら、専門性を身につけていける環境があり、きっと皆さんも社会学類で学ぶ楽しさに気づき、興味のある専門分野に出会えるはずです。大学生という貴重な時間を過ごす環境として、皆さんの選択が社会学類、とりわけ法学主専攻であるならば、卒業生として嬉しく思います。

社会学類の先輩達は当時どんなことを考え、 どんな学生生活を送っていたのか？ 今は卒業し就職した先輩達に聞いてみました。

経済学主専攻卒

警察共済組合本部 新堀 友理奈



「実際に体験や経験をしてみると、イメージと違った。」

みなさんは、そう感じたことはありませんか？私が経済学を専攻した理由も、イメージと違って身近で面白いかもしれない、と思ったからでした。

経済学は、「お金のことばかり考えている」とか「数学をたくさん使って難しそうだ」とか、とにかく取っつきにくいイメージを持っている人が多いと思います。もちろん、そういう一面もありますが、それが全てではありません。私が学んだ経済学やゲーム理論は、“お金”ではなく、専門用語で「効用」と呼ばれる幸福感や満足度のモノサシを基礎に作られていて、この効用水準を様々な状況で最大にする行

動や選択肢を探究するのです。

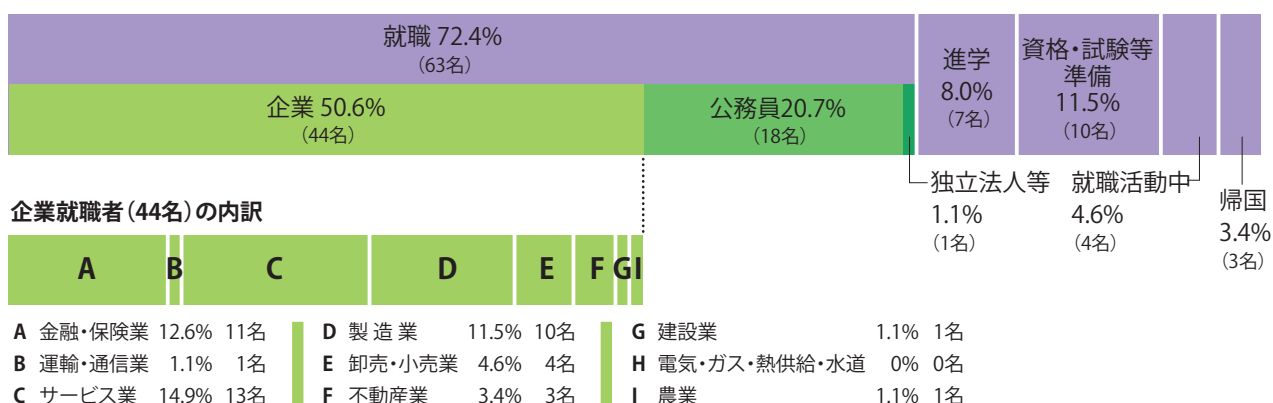
私達は日頃の生活で、自分にとって最も良い選択肢は何かを考えますよね。それが経済学の基本なのです。もし、これが『自分』ではなく、『社会』として、社会全体の効用を最大にすることを考えるならば、それは政治学とも関連してきます。こうして、社会における人間の営みをこのような角度から切り取っていく経済学が、他の様々な学問とつながっていく様子を私は知りました。社会学類では、他専攻や他学類の授業も履修することができるので、広く沢山の分野を学ぶことができました。

大学生活は一人暮らしやアルバイトなど、初めてのことばかりでしょう。それだけでも広く様々な体験や経験ができます。ですが、経済学主専攻は少人数で（私の在学時、1学年10名程度）先生方や先輩・後輩との距離が近く、アットホームな雰囲気の中で考えを深めることができます。このような機会や環境はなかなかなく、とても贅沢だったな、と今とても思います。みなさんが経済学主専攻で沢山の体験や経験をして考えを深め、大きく成長されることを期待しています。

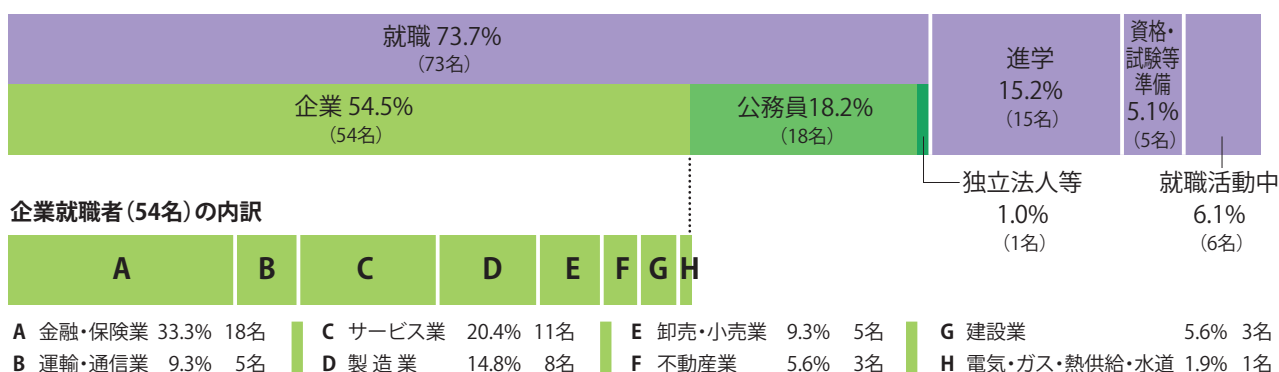
卒業生の進路

最近の傾向でみると、就職する者が約7割に達し、その就職先は多岐にわたります。特に金融・メディア・情報通信、サービスならびに製造業分野に強く、多くの人材を輩出してきました。また公務員の道を選ぶ者も多く、全体の約2割をしめます。一方、大学院進学や司法試験・公認会計士などの資格試験の準備をする者も、同様に約2割をしめており、将来、研究職や高度な専門職につく卒業生も少なくありません。

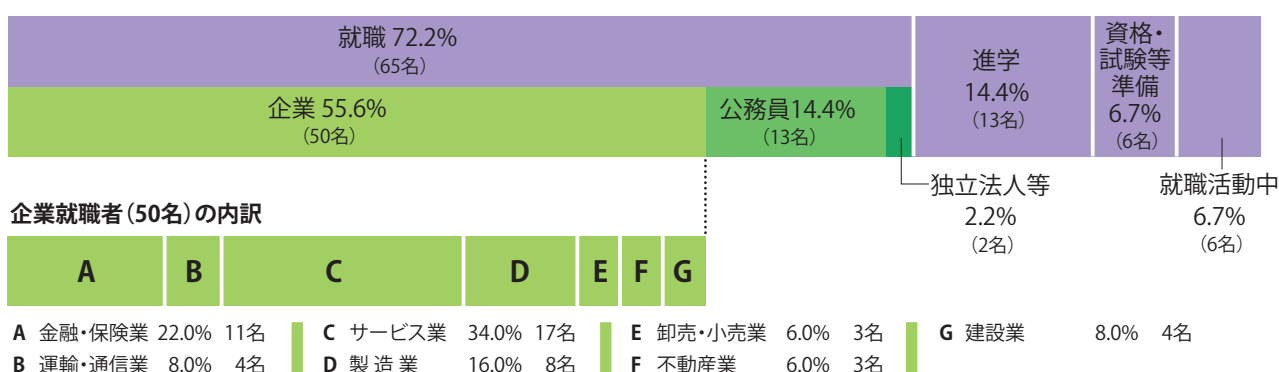
平成27年度【卒業生 87名】



平成26年度【卒業生 99名】



平成25年度【卒業生 90名】



最近5年間の主な就職・進学先（平成22～26年度）

銀行・信託業

三菱東京UFJ銀行
三井住友銀行
みずほ銀行
日本政策金融公庫
ゆうちょ銀行
りそな銀行
常陽銀行
千葉銀行
横浜銀行
静岡銀行
群馬銀行
山口銀行
ジャパンネット銀行
三菱UFJ信託銀行
三井住友信託銀行
三井住友VISAカード
ジェシービー
オリックス

保険・証券業

第一生命保険
日本生命保険
住友生命保険
明治安田生命保険
かんぽ生命
アクサ生命
損害保険ジャパン日本興亜
野村證券
大和證券

新聞・放送業

朝日新聞
読売新聞
中日新聞
西日本新聞
信濃毎日新聞
NHK
テレビ朝日
関西テレビ
福岡放送
新潟テレビ

調査・コンサルティング・ 広告代理店

野村総合研究所
電通
船井総合研究所

情報・通信業

NTT東日本
ソフトバンク
日立ソリューションズ
富士通エフ・アイ・ピー
第一生命情報システム
東映
NTTデータフロンティア

製造・電力業

新日鐵住金
東芝
三菱電機
ヤマハ
大日本印刷
日本ガイシ
リンナイ
P&G
日本ハム
プリマハム
味の素冷凍食品
デサント
グンゼ
昭和シェル石油
古河機械金属
東北電力
九州電力

住宅・建設業

大林組
鹿島建設
トヨタホーム
住友林業
三井ホーム
積水ハウス
大和ハウス工業
日比谷総合設備

運輸・同サービス業

日本郵船
JR東日本
日本郵政
JTB
阪急交通
ケイラインジャパン

卸売・小売業

丸紅
楽天
三菱商事パッケージング
三菱商事マシナリ
豊田通商
日鐵商事
双日
丸善
ローソン
ニトリ

不動産取引業

東急不動産
三井不動産リアルティ
コスモスイニシア
ホンダ開発

宿泊・生活関連サービス・ 娯楽業

星野リゾート
キョードー東北

国家公務員

総務省
厚生労働省
人事院
東京地裁
東京家裁
札幌東労働基準監督署
さいたま地裁
東京高裁管轄裁判所
国立国会図書館
名古屋家庭裁判所

地方公務員

●都道府県庁

東京／茨城／埼玉／静岡／
栃木／岐阜／岡山など

●市役所

名古屋／横浜／さいたま／
つくば／熊谷／春日部／
堺など

●警察署

茨城／埼玉／千葉など

教育研究機関・ 独立行政法人

千葉大学
宇都宮大学
高エネルギー加速器研究機構
海洋研究開発機構
鉄道建設・
運輸施設整備支援機構
日本司法支援センター

業界団体等

日本自動車連盟

進学（大学院）

筑波大学
東京大学
東北大学
一橋大学
慶應義塾大学



宿舎に入居している学生を中心として、毎年5月末に開催される宿舎祭。参加の充実感120%。



新入生がキャンパスを飛び出して、アメリカンセンターJapanを訪問した時のものです。



フレッシュマン・セミナーで、サイバードインスタジオに出かけ、世界初のサイボーグ型ロボット「ロボットスーツHAL.A.N.」を体験した時のひとコマです。

「社学生」の

生

活

Campus Life

主に社会学類生で構成されるサークルの桐政会では、社会・政治問題を熱く議論します。



フレッシュマン・セミナーでは充実した学習内容が用意されています。これは環境学習の際の写真です。



11月に行われる学園祭「双峰祭」の様子です。一般のお客さんとサークルや学類の屋台で賑わっています。毎年大変盛り上がる筑波大学最大のイベントです。

中央図書館です。図書館内にはテイクアウト可能な喫茶店もあります。試験期間前になると多くの人が課題に追われて図書館を利用します。

「STUDENT PLAZA」

ここには「就職課」などがあり、就職活動に関する様々な資料が詰まっています。



入学案内

入学定員 1 学年 80 名（国費留学生は別枠）／編入 10 名

1	推薦入試	募集人員 16 名 試験時期 11 月下旬 試験科目 小論文および面接
2	一般入試	募集人員 前期 64 名 試験時期 大学入試センター試験…… 1 月中旬 個別学力検査… 前期 2 月下旬 ▽ 個別学力検査の試験科目 前期 ●外国語 (英、独、仏、中の中から 1 科目を事前選択) ●数学(数Ⅱ・数 B)、国語(現代文 B・古典 B)、 地理歴史(世界史 B、日本史 B から 1 科目を選択)の中から 1 教科を事前選択
3	私費外国人 留学生入試	募集人員 若干名 試験時期 2 月下旬 試験科目 小論文および面接
4	帰国生徒 特別入試 (10 月入学)	募集人員 若干名 試験時期 7 月 試験科目 小論文および面接
5	編入学試験	募集人員 10 名 試験科目 2 月下旬 試験科目 各主専攻分野の専門科目、外国語および面接
問い合わせ先		筑波大学 教育推進部 入試課 Tel. 029-853-6007 なお、募集要項の発表は、毎年 9 月下旬です。 ※詳細は以下の URL まで http://www.tsukuba.ac.jp/general/index.html http://www.tsukuba.ac.jp/admission/index.html



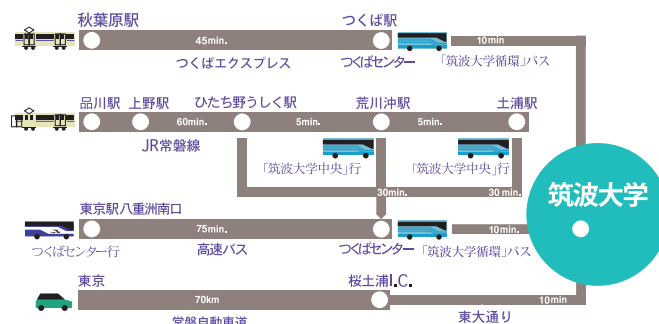
筑波大学社会学類案内誌

社会学類への招待

2016 年 7 月 8 日 初版一刷発行 禁無断転載

編集委員 学類長：土井 隆義
社会学類広報委員：守田 智保子（委員長）、樽川 典子、崔 宰栄、高橋 秀直
企画・編集 社会学類広報委員会
デザイン 松澤 康行
写真 小沼 渉
発行 筑波大学社会・国際学群社会学類
〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1
<http://shakai.tsukuba.ac.jp/>
印刷・製本 株式会社いなもと印刷

社会学類への招待



■ 筑波大学へのアクセス | Access

◎つくばエクスプレス

- 「秋葉原駅」から「つくば駅」まで最速45分
「つくばセンター」から「筑波大学中央」行きバス(10分)または
「筑波大学循環(右回り)(左回り)」バス(10-15分)「第一エリア前」下車

◎高速バス

- 「東京駅八重洲南口」から「筑波大学」行きバス(約75分)
- 「東京駅八重洲南口」から「つくばセンター」行きバス(約65分)
「つくばセンター」から「筑波大学中央」行きバス(10分)または
「筑波大学循環(右回り(左回り))」バス(10-15分)「第一エリア前」下車

◎JR常磐線

- 「ひたち野うしく駅」東口バスターミナルから
「筑波大学中央」行きバス(40-50分)「第一エリア前」下車
- 「荒川沖駅」西口バスターミナルから
「筑波大学中央」行きバス(30-40分)「第一エリア前」下車
- 「土浦駅」西口バスターミナルから
「筑波大学中央」行きバス(35-40分)「第一エリア前」下車

